

次世代燃料 脱炭素狙いに

リニューアブルディーゼル

岩手県ニチレキ 道路工事で全国初導入



道路整備事業を手がける

水沢の岩手ニチレキ(株)（沼倉修市社長、資本金2000万円、水沢工業団地）は、県が発注した金ケ崎町内の道路舗装補修工事で、次世代燃料「リニューアブルディーゼル燃料（RD燃料）」を導入した作業を実施している。道路工事のRD燃料活用は全国初の事例で、二酸化炭素（CO₂）排出量を削減しながら企業の脱炭素化を目指す。

ニチレキグループは地球環境に配慮した対策として、

次世代燃料「リニューアブルディーゼル」を使用した建設機械による道路工事が行われている金ケ崎町西根八荒神の現場

て、温室効果ガス削減に向けた製造方法の改革やグリーン電力の購入、太陽光パネルの設置促進などに加え、低炭素燃料と脱炭素燃料、水素と電氣を利用した自動車や建設機械の活用に取り組んでいる。

国交省が今年4月に公表した土木工事の脱炭素アクションプランでは、建設機械の脱炭素化の項目で次世代燃料の使用促進を掲げている。同グループは、廃食油や廃動植物油を原料とする次世代型のRD燃料に着目。RD燃料は従来のバイオ燃料と異なり、軽油と混合することなく軽油の代替として使用可能な燃料で、窒素酸化物や粒子状物質の低減効果、低溫流動性、貯蔵安定性に優れているという。

RD燃料を導入した工事が行われているのは、同町西根八荒神地内の県道前沢北上線。11月13日の3日間、地盤改良に使われるスタビライザーにRD燃料を使用していた路上路盤再生工事が実

証されている。

同グループによると、3日間の工事面積は2200平方メートルに及び、使用するRD燃料は1000リットル。RD燃料使用によるCO₂削減効果は2・62トンの見込んでいる。スキの木が1年間に吸収するCO₂は14ギガで、スギ約187本の年間吸収量に相当するという。

RD燃料は軽油と比較してCO₂排出量を大きく削減できる一方、価格は割高で国内の法整備が進んでおらず、必要な手続きが煩雑

といった課題もある。同グループ工事統括部・安全品質環境部の川添崇生部長代理は「近年の異常気象や大船渡市の山林火災もあり、道路工事からCO₂削減に挑戦していきたい」と強調した。

「解決しなければならぬ課題も多いが、環境を改善する一歩にしたい」と沼倉社長。環境に対する県の取り組みとリンクしながら、RD燃料の導入が一般的なこととなればと意気込んでいた。（佐藤和人）